

妙安寺だより 332

テレフォン法話 092-751-6084 (毎週月曜日に話が変わります)

日本昔話より 「こぶとり爺さんと舌切り雀」 3

こぶとり爺さん

コブがなくなったお爺さんは、毎日町に行っては、今までえたきたお金をのごとく、使ってしまったので、ついに家はのをたどりました。

一方、左右にコブができたお爺さんは、ますますで暗い性格になり、家に閉じこもるようになり、お金を使うこともなく、次第に蓄えができて、ついに村一番の長者になりました。(終)

※この物語は、すべての人間には「陰と陽」「明と暗」「表と裏」「善と悪」などの性格がわっているという話です。

舌切り雀

ある村に、お爺さんとお婆さんが住んでいました。ある日、お爺さんが傷ついた雀を、毎日したおかげで雀は元気を取り戻しました。

ある日、お爺さんはお婆さんに雀に食事を与えるように言いつけて、用事で家を開けることになりました。お婆さんは、その言いつけを守らずに、せつせとを作っていました。

お腹を空かしていた雀は、お婆さんが作っていた糊を食べてしまい、お婆さんは怒って、雀の舌を切り取ってしまいました。

お爺さんが帰ってきて、可愛がっていた雀がいないので、お婆さんに理由を聞き、雀を探しに出かけ雀の宿に着いたお爺さんはを受け、おに小さなつづらを貰いました。

それを聞いたお婆さんは、雀にお宿についてごもそこそこに、欲を出して大きなつづらを貰って帰りました。つづらの中身は、多分同じ物が入っていたと思います。

だが、お爺さんは昔の大切な物を懐かしそうに取り出しました。お婆さんは、宝物が入っていると思い、昔の物を放り投げ探し続けました。(終)

※この物語は、人間の「素直な心と欲のある心」を説いた話で、人は、お金には変えられない大切なものがあります。

「昔懐かしい物」「友情」「人付き合い」など、今では薄れてしまったようです。

